

脱炭素経営を 強みにするなら



GX業界のユニコーン企業が脱炭素経営の悩みを解決します

- ☑ 2015年から取り組んできた脱炭素経営の経験と実績
- ☑ 脱炭素を事業成長につなげる伴走支援
- ☑ CO2計算クラウドサービスで簡単に算定

01

脱炭素経営を検討段階
からサポート



・うちは脱炭素に取り組んだ方がいいの？
・どういう計画を立てればいいのか？
そんなお悩みからご相談にのります。
脱炭素経営について知識や経験の豊富な
担当が付きまますのでご安心ください。

02

自社で実践してきた
ノウハウの活用



マテリアリティの策定、ガバナンスの構築、CO2排出量やCO2削減貢献量の計算、SBTやCDPの対応など。自社で実際に取り組んできた経験も活用してサポートいたします。

03

お客様の状況に最適な
サポートをご提案



・CO2排出量の計算を全部まかせたい
・計算ツールだけ使いたい
・進捗に応じてサポートを増やしたい等
お客様のご要望やご状況に合わせて
最適なサポートをご提案いたします。
問い合わせ回数も無制限ですので、
お気軽にご相談ください。



お客様の声

株式会社フネンアクロス

▼脱炭素に取り組んだ背景

取引先から脱炭素の取り組みについて聞かれたのがきっかけでした。自社のCO2排出量を把握しないといけない、という世の中になってきているのはなんとなく感じていました。そこで、いざ算定しようとその方法を調べたら、予想以上に大変な作業だということが分かりました。

(インタビューより抜粋)



[インタビューをもっと読む >](#)

スワテック建設株式会社

▼脱炭素に取り組んだ背景

多くのメディアで企業のサステナビリティや脱炭素を聞くようになっていたので、うちも何か取り組まないといけないよね、という雰囲気はありました。取り組むきっかけとなった要因の1つは競合企業様の動きです。脱炭素経営に取り組んでいるという内容が、地元新聞や業界誌でも取り上げられたため、自社も脱炭素経営の一步目を踏み出そう、という判断になりました。

(インタビューより抜粋)



[インタビューをもっと読む >](#)

株式会社Atomis

▼サステナビリティ研修実施の背景

当社製品のPCP/MOFは、CO2をはじめとする温室効果ガス(以下GHG)を吸着分離するための材料として期待されています。そのため、昨年から、製品単位のCO2排出量(LCAやCFP)について聞かれることが増えてきました。

こういった近年の環境意識の高まりから、自社でも製品単位あたりのCO2排出量を削減するための取り組みが必要だと判断しました。しかし、LCAの基本的な知識や、製造時のCO2算定方法に関する基礎的な知識が不足していたため、体系的に学ぶために研修をすることにしました。

(インタビューより抜粋)



[インタビューをもっと読む >](#)

ドライシステムソリューション株式会社

▼ScopeX導入背景

ScopeX導入の背景は大きく2点あります。1つ目は「ご提案や質問の回答が非常に分かりやすかった」という点です。似たようなサービスを複数社から聞きましたが、専門用語が非常に多く、何を言っているのか分からない企業もいくつかありました。

2つ目は「TBMさんが製造業としてCO2を算定していた」という点です。CO2算定サービスを提供している会社の多くはIT会社のため、質問をしてもすぐに回答できないというケースが多かったです。TBMさんは素材メーカーなので、細かな意思疎通が取りやすかったです。

(インタビューより抜粋)



[インタビューをもっと読む >](#)

料金プラン

(初期費用はサポート内容に合わせて調整しますのでご相談ください)

Scope1・2だけなら
スター

利用料金
年間 **6** 万円/拠点
(月5,000円/拠点)

初期費用
5~20 万円
(初年度のみ)

ユーザー数
無制限

カスタマイズ開発
-

Scope3までの算定は
ベーシック

利用料金
年間 **24** 万円/拠点
(月20,000円/拠点)

初期費用
10~90 万円
(初年度のみ)

ユーザー数
無制限

カスタマイズ開発
-

4拠点以上なら
エンタープライズ

利用料金
都度見積り

初期費用
都度見積り
初年度のみ

ユーザー数
無制限

カスタマイズ開発
○

企業情報

社名 株式会社TBM

住所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-2-2 東宝日比谷ビル15F

電話番号: 03-6268-8915 (代表) HP: <https://tb-m.com/>

お問い合わせ: nb-ds@tb-m.com



まずは無料で相談 >

T B M